

〔問題提起〕 家族とともに描く これからへの備え

特定非営利活動法人クローバー
理事長 藤井 亘

利益相反開示

本演題に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。

発表者：藤井 亘

NPO法人クローバー

法人名 特定非営利活動法人クローバー

理事長 藤井 亘（わたる）

設立年月 2002年4月23日設立

所在地〒171-0051 東京都豊島区長崎2-15-16-1階

（法人本部）TEL：03-3959-5941

FAX：03-5926-7275

従業員数

常勤4名・非常勤2名・登録サポーター40名

事業内容

障がい児・者ヘルパー派遣事業

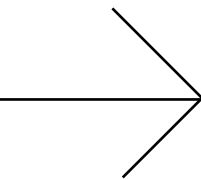
障がい児・者ショートステイ事業

障害児・者計画相談支援 ほか

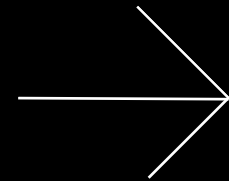




• 未来に向けた安心と準備の重要性
家族とともに描く
これからへの備え



導入



問題提起とこの時間の目的



問題提起の背景

ダウン症のある方が地域で安心して暮らすために、今何を準備すべきかが重要な課題です。



講師の経験と視点

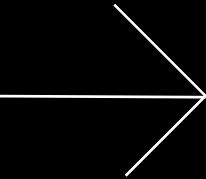
相談支援専門員や短期入所(ショートステイ)運営者、地域支援協議会副会長として、
家庭・地域・緊急対応の三つの視点を持っています。



講演のゴール

特別な備えではなく、今の生活の整えが未来の安心につながると共有します。

背景と課題の認識



親の高齢化と “今困った!!”の 構造

親の高齢化の不安

親の年齢が上がると、子どもの将来に対する不安が強くなります。家族の支援体制の変化が影響します。

突然の環境変化

入院や介護疲れ、認知症の進行など家族側の急変が環境の急激な変化を引き起こします。

備えの重要性

事前の準備や計画が混乱を軽減し、安定した支援環境を作ることが可能です。



講師の立場と視点

相談支援専門員の役割

多くの家庭と関わり、個別の問題解決に向けた支援を行っています。

地域支援体制づくり

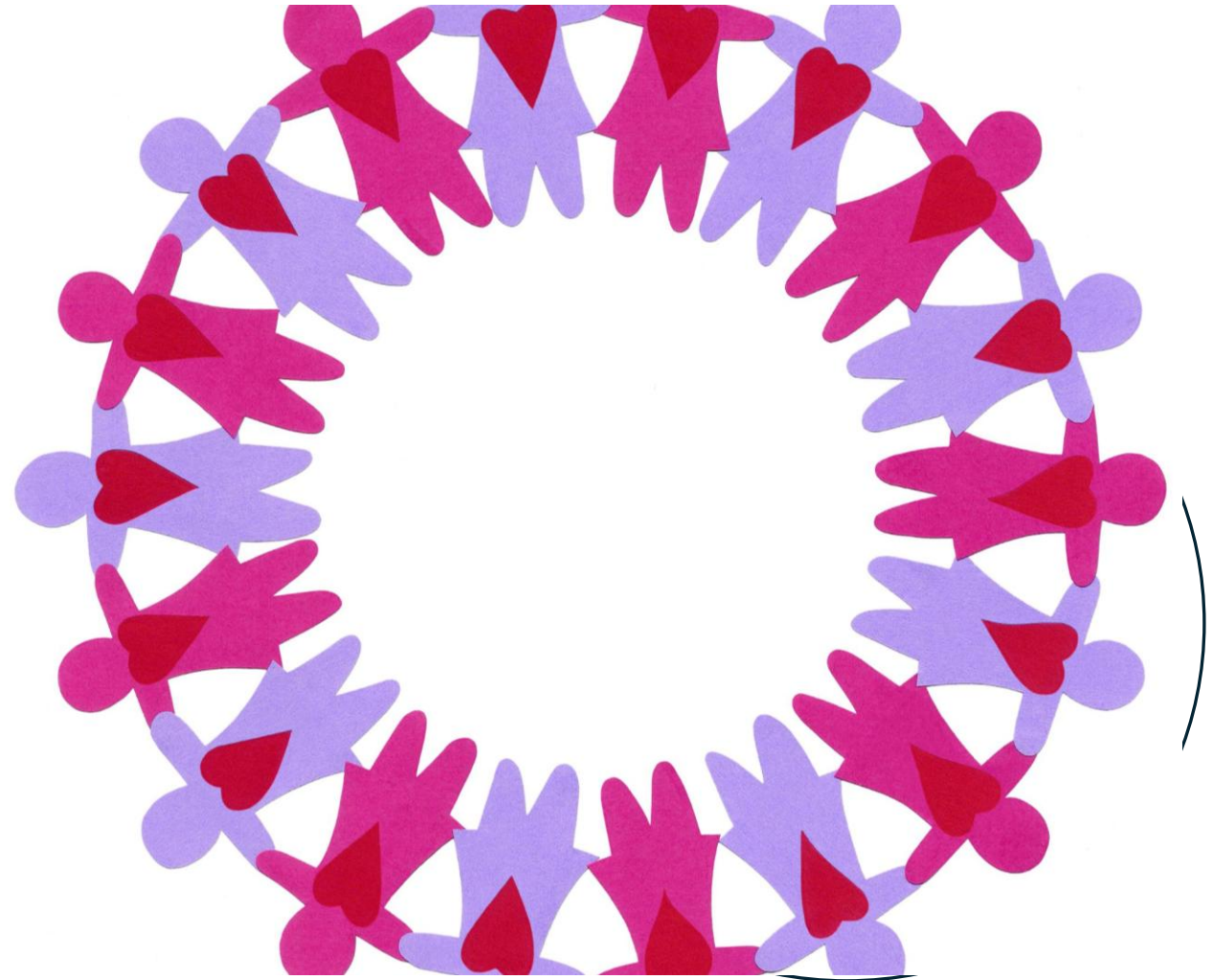
自立支援協議会の副会長として地域の支援連携や体制構築を推進しています。

緊急対応の現場

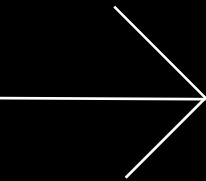
短期入所施設を運営し、緊急時の受け皿として機能しています。

備えと問題提起

具体的事例を基に“今困った!!”を未然に防ぐ備えの重要性を提案しています。



“今困った!!” が起きる構造





生活情報が家族の頭の中にしかない

生活リズムの情報不足

本人の生活リズムやこだわりが支援者に共有されておらず、適切な支援が難しくなっています。

緊急時のリスク

多くを語らない親御さんの場合、緊急時に必要情報が不足し大きなリスクが生じます。

安心環境の再現困難

情報共有がないため、本人が安心できる環境を再現することが難しく混乱を招きます。

本人が突然の 環境変化に弱い

突然の変化の影響

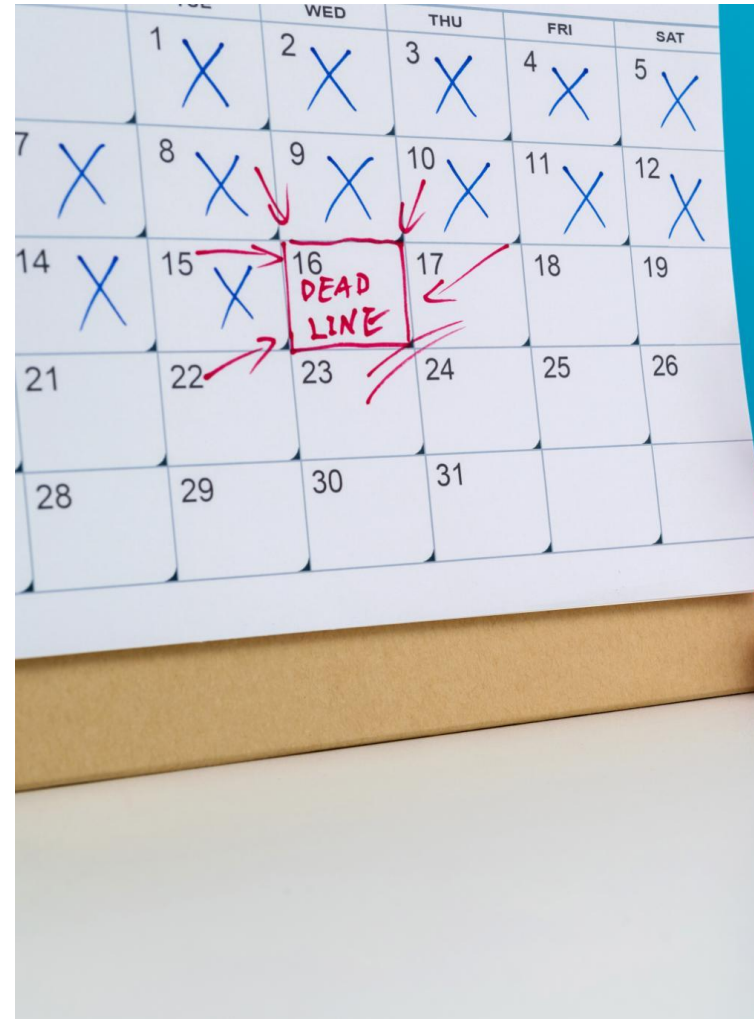
急な環境の変化は不安や混乱を引き起こし、本人に大きなストレスを与えます。

スケジュール提示の重要性

短期入所では事前のスケジュール提示や生活リズムの維持が安心感を生み出します。

情報共有と予測可能性

事前の情報共有と環境の予測可能性が本人のストレス軽減に不可欠です。



家族の余裕のなさが 構造的に存在する

複数の課題の同時存在

兄弟の介護や別の病気など複数の問題が同時に家族内に存在しています。

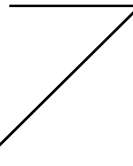
余裕の喪失とバランス崩壊

家族の余裕がなくなり、家庭内のバランスが崩れて突然困難な状況になります。

緊急支援の必要性

構造的な余裕のなさが緊急支援を必要とする背景となっています。





事例から学ぶ備えの重要性

家族の急変による混乱



急変時の混乱

家族の急変で本人が混乱状態に陥り、適切な対応が困難となりました。



生活情報の不共有

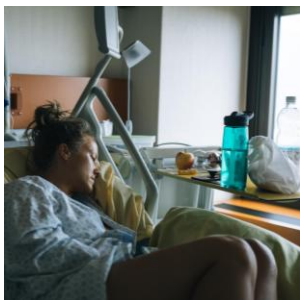
本人の生活習慣や好みが支援者に共有されておらず、ケアの質が低下しました。



生活の見える化の重要性

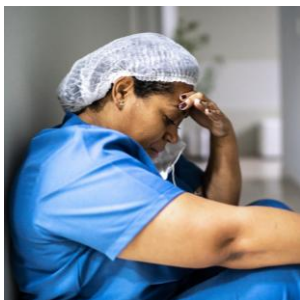
生活情報を可視化することで、不安軽減と支援者の対応改善が期待されます。

本人の混乱は情報不足と変化によるもの



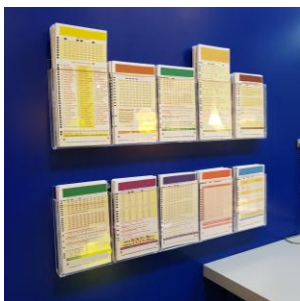
混乱の原因

本人の混乱は説明不足と急激な環境変化によるもので、能力の問題ではありません。



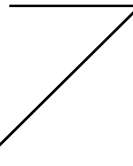
説明不足の影響

不十分な説明により、食事が進まない、歩き回る、帰宅願望が強まるなどの行動が見られました。



視覚化による安心

スケジュールの視覚化と丁寧な説明で本人が安心し、落ち着いて過ごせるようになりました。



相談支援と地域の隙間

家庭側の準備不足 と相談支援の限界

家庭の準備不足

本人の生活情報が整理されず、家族の希望が言語化されていない課題が存在します。

相談支援の役割

相談支援は困る前に関わることで最大の効果を発揮し、早期の準備が不可欠です。

相談文化の課題

“元気なうちに相談する”文化が弱く、これが適切な支援の妨げとなっています。



地域の隙間と 支援の届きにくさ

支援の隙間存在

地域には制度や家庭・事業所間で支援が届きにくい隙間が存在しています。

小さな困りごとの蓄積

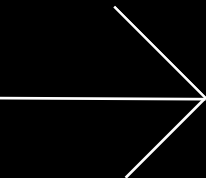
通院の付き添いや家事支援などの小さな困りごとが家族の疲弊につながります。

緊急支援の必要性

支援の隙間が埋まらないと最終的に緊急支援が必要になるケースが増えます。



これからへの備え



生活の見える化と できることの増加

生活情報の共有

写真や動画で日々の様子や好みを支援者と共有し、不安を軽減できます。

できることの拡大

家事や買い物など、本人ができることを一緒に増やす姿勢が自立を促します。

緊急対応の強化

生活の見える化が緊急時の対応を容易にし、安心感を高めます。



地域との関係づくりと家族自身の備え



地域支援の安心感

地域の相談支援や生活介護など、知っている人が一人いることで大きな安心感が生まれます。



家族の情報共有

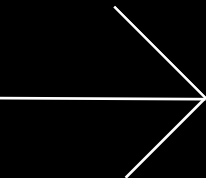
緊急連絡先の整理や兄弟への情報共有、家族の希望を言語化することが重要です。



家族の健康管理

親自身の健康管理が整うことで、本人の未来の安定にもつながります。

まとめと次の登壇者への橋渡し



問題提起のまとめと実践へのつなぎ

生活の見直し

日常生活を少し見直すことが、未来の安心につながる重要な準備です。

情報の共有

家族の頭の中にある情報を外に出し、共有することが大切です。

地域とのつながり

地域社会との早期のつながりづくりが支援の基盤を築きます。

実践への橋渡し

次の登壇者による具体的な相談支援と実践事例の紹介につながります。

